

志津のお宝発見！地域と作る私たちの学校

草津市	活動名：志津小地域協働合校事業	志津小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成27年度 地域学校協働活動推進員等数:3人 ボランティア登録数:200人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 □地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

総合的な学習の時間の支援に関わって、子どもたちが地域に愛情を持ち、将来地域のために活動できるように、どのような学習をプログラムしていけばよいか熟議した。志津の宝は「自然」と「歴史」であることをもとに、系統的な学習を構築していこうと確認した。学校教育の中でスクール ESD くさつプロジェクトの取組を今後も継続して進めていき、毎年少しずつバージョンアップしながら地域の「財」や「人材」をどんどん活用していくことを確認した。

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

(1)4年生「総合的な学習の時間」

4年生の総合的な学習の時間「志津っ子エコマスターを目指そう！」では、昔の志津の地域や環境に詳しい地域の方から話を聞き、ごみ調査や環境アンケート、企業の方との紙すき体験、廃油を使ったキャンドル作り、木の端材を使った看板作り、使わない服や牛乳パックを使ったそうじ道具作りなどの体験をした。学んだことを他学年や保護者、地域の方に発信する場として「志津っ子エコ祭り」を設けた。子どもたちと地域の「人」「企業」「施設」など様々なつながりを持つことができた。



【志津っ子エコマスターを目指そう！地域の方の話】

(2)5年生「総合的な学習の時間」

5年生の総合的な学習の時間「食の環 smile プロジェクト:食を通して笑顔が増える取組を発信！」では、給食の残食調べをきっかけに、身の回りのフードロスという課題に目を向け、それらの課題解決に向け、「給食の献立づくり」に取り組んだ。また、地域の飲食店と連携し、児童が考えたプレートをお店で提供する活動を計画した。「どうすれば食を通して笑顔を増やしていけるのだろう」と課題意識を持ち、アンケート調査やインタビュー活動、野菜作り体験、収穫したお米や野菜を使った調理実習などを行った。子どもたちは積極的に食に関心を持ち、地域や人との関わりを持つことができた。

■ 事業の成果・展望

今年度、「課題意識をしっかりと持ち、地域に発信していく」ことを目標として、各学年で取り組んだ。その一つとして、4年生が学んだことをもとに、端材で作った看板を地域の施設に配ることで、より地域に対して愛着を持つことができ、ごみを減らすために自分たちにできることを考えようという意欲を高めることができた。保護者だけでなく地域の方にも発信することで、自分たちの地域を意識して守っていこうとする意欲を高めることができた。また、5年生は、いろいろな講師を招いて食について考えを深め、学んだことをもとに自分たちが考えた給食が市内小中学校に提供されたり、地域の飲食店のメニューに反映されたりするなど、発信の場を明確にすることで、食環境に関心を持ち、専門家の意見を生かしながら協働して課題解決に取り組むことができた。今後も、地域コーディネーターと連携を密にして、さまざまな内容に関わってくださる地域の方を発掘し、子どもたちのよりよい学びの場にしていき、発信の場を学校や保護者だけでなく、地域にも増やしていくことで、地域とともに学校づくりに取り組んでいきたい。



【食の環 smile プロジェクト:栄養士さんの話】

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他(学年担当教職員)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

地域の方と一緒に、学び育つ南っ子！！

草津市	活動名：志津南小地域協働合校事業	志津南小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：145人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

- ・各学期の学校(児童)の様子
- ・各学期の地域協働合校の取組についての紹介や協力依頼
- ・学校と地域との連携について意見交流
- ・学校と立命館大学との連携事業について

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

(1)「学校ボランティア活動」(全校)

地域の方々や保護者に呼びかけ、登録制の学校ボランティアを実施して3年目。校内での学校行事や学習のサポート、校区内での校外学習の見守りなど、都合のつくときに気軽に参加いただくことをコンセプトとして実施している。高学年の家庭科「裁縫やミシンの扱い」、地域の公園への自然観察、近隣の工場や施設、お店の見学の道中見守り、学校の花壇の整備等にもご尽力いただいた。

(2)「立命館大学との交流」(全校)

「立命館大学 BKC 地域連携課」の方にご協力いただき、学生の方々に小学校に来ていただき、1年生から6年生まで学年毎に、ポッチャ体験や紙飛行機製作、天体学習、フードロス等についての学習、バスケットボール、運動レクリエーション活動などの体験をさせていただいた。



【 りょうぶの道 散策 】

■ 事業の成果・展望

学校ボランティアの協力によって、児童の学習活動が充実したり、安全に実施できる手助けになったりするなど、学習における成果が大きかった。また、学校の環境美化にもつながった。

顔を合わせる機会が多くなることで、地域で出会ったときに挨拶を交わす場面もあった。立命館大学との交流については、学年のニーズに合った内容であり、年齢が近い学生に教えていただいたり、触れ合ったりできたことは、児童が人や物事に興味やあこがれをもつ貴重な経験の場となった。

今後の展望としては、この活動がさらに充実した形となって継続されることが望ましいと考えている。ただ、現在協力いただいている方々の後継者をどのように探していくかは、今後の課題である。そして、活動内容に関しては、地域の方と学校とが互いの思いや意図をしっかりと話し合いの中で確認して実践することが大切である。今後も、そのような事を意識し、互いににとって有意義な活動にしていきたい。



【 立命館大学との交流 】

■ その他

年に4回、学校運営協議会において、地域協働合校の事業計画や実施状況を報告している。そこで出された意見や助言等を参考にして次の活動に生かしている。

志津南小学校 HP <https://kusatsu.scblo.jp/shizuminami>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

草津小 なでしこ ESD カリキュラム ～地域と学びあい、発信しよう～

草津市	活動名：草津小地域協働合校事業	草津小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成27年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 ボランティア登録数:35人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園
 学校運営協議会
 地域学校協働活動推進員等
 行政
 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

(学校運営協議会委員からの御意見)

- ・「スクール ESD くさつプロジェクト」の取組として、地域を巻き込んだカリキュラムの編成がたいへんすばらしい。
- ・地域の人材や資源をカリキュラムに取り入れる際には、計画・調整などの労力を要するが、児童の主体性や社会参加の態度を養う上ではたいへん有意義である。

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

(1)「なでしこの花を育てよう」

「なでしこ」は、本校の校章の図柄であり、児童により愛着を感じさせながら愛校心を育てる活動を実施している。総合的な学習の時間帯を利用し、草津小 PTA や草津学区ひと・まちいきいき協議会、環境ボランティアや湖南農業高等学校の協力を得ながら、苗の植え付けや水やり、草引き等日々世話をし、育てている。

(2)環境ボランティアとの連携

「さつまいも作り(1年)」「花を育てよう(3年)」「米作り(5年)」

1年生は「さつまいも作り」、3年生は「花の植え替え」で地域の方と一緒に活動している。5年生は総合的な学習「なでしこ」の時間に、敷地内にある学校田で稲を育てている。毎年、土づくりから収穫まで環境ボランティアが児童一人ひとりに丁寧な指導をしている。5年生は、米の収穫後に「収穫祭」を開催し、環境ボランティアの方を招いて劇や歌の発表を行い、交流を深めた。

(3)各学年の「なでしこ ESD カリキュラム」の実践

- 1年:「あきのおたからまつり」【地域】
- 2年:「もっとなかよし 草津のまちたんけん」【地域】
- 3年:「みんなにやさしいくらし ～草津小から考える～」【福祉】
- 4年:「近江お国じまん ～「草津宿本陣」子どもガイドツアー～」【地域】
- 5年:「健幸都市くさつ大作戦」【地域】
- 6年:「PEACE ～祈りをこめて～」【人権】



【 5年 米作り 】

■ 事業の成果・展望

○何年も継続してボランティア活動に取り組んでいただいているため、スムーズに活動を行うことができている。

○継続した取組が地域の方の「草津小学校の教育活動を支えている」という誇りや生き甲斐につながっている。関わりが深まることで、児童は、収穫の喜びとともに「いろいろな人に見守ってもらっていると感じ、豊かな心の成長につながっている。

○地域と共に学ぶ姿勢が、児童の社会参加への意識や自己有用感の醸成につながった。

○ボランティアの方が熱心に、児童一人ひとりに丁寧な指導をしてくださるおかげで、児童の意欲向上につながっている。「児童が試行錯誤をし、自力解決する力をつける学習」を目指す必要性を感じている。



【 4年 草津宿本陣ガイド 】

■ その他

○年4回の学校運営協議会において連絡調整等を実施している。

○スクール ESD くさつプロジェクトに取り組む、地域の課題解決をしている。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長
 教頭
 地域連携担当教職員
 その他(各学年主任)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

「人・もの・地域」と触れ合い、高め合おう！

草津市	活動名：草津第二小地域協働合校事業	草津第二小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成27年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 ボランティア登録数:105人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 □学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

・地域協働合校の取組(1年:サツマイモ植え 2年:ミニトマト植え 3年:大好きよもと 4年:パッカー車見学 5年:田んぼの子 6年:作陶体験)について紹介し、発達段階に応じた学習や活動を計画し、地域の方と関わっていることを知ってもらった。
 ・子どもたちがのびのびと成長し、学習に取り組むために地域で支えていきたいというご意見から、ボランティアの方に5年生の家庭科などで学習支援をしていただいた。

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

・1, 2年生「野菜を育てよう」では、地域の種苗店の方にサツマイモ・ミニトマト・ラディッシュの植え方や育て方をていねいに教えていただき、栽培や収穫に取り組むことができた。
 ・3年生「お店体験」では、地域の商店街や商業施設の中のお店(約10店舗)で、子どもたちがお仕事体験をさせていただき、仕事の大変さや楽しさを学んだ。
 ・6年生「マイドリーム」では、難病によって寝たきりの生活を送りながらも社会福祉士として活動されている方から、分身ロボット「Orihime」を通してお話を聞いた。
 ・3学期に、委員会活動で「地域の方と触れ合おう」というテーマで、今までの学習でお世話になった地域の方に来ていただき、握手、ハイタッチ、じゃんけん等で全校の子どもたちと交流する活動を計画している。



【 6年生:マイドリーム 】

■ 事業の成果・展望

・1, 2年生は専門の方に教えていただくことで、野菜を育てることへの興味が深まり、毎日欠かさず水やりをし、成長や収穫を楽しむ姿が見られた。
 ・地域の店でお仕事を体験し、仕事の内容を教えてもらったり、地域のお客さんと触れ合ったりする中で、学校や家庭以外の大人とつながるよい機会となった。
 ・分身ロボット「Orihime」を通して、病気でご自宅を出られない方に質問して答えてもらったり、自分の夢やお話を聞いて感想を伝えたりするなどのつながりをもつことができた。難病に苦しみながらも自分の夢をもち、前向きに生きておられる方のお話を聞くことで、子どもたちの今後のためになるだけでなく、話をしてくださった方にも子どもたちとのつながりをもてたことを喜んでくれた。
 ・地域の方やお店にご協力いただけるように、地域コーディネーターが各方面に働きかけているが、古くからの住民の方が少なく、お話をしていただける方がなかなか見つからなかったり、店舗の入れ替わりのために体験できるお店が少なかったりと、地域との学習を進めていくことが難しい状況にある。
 ・子どもたちの学習を進め、地域への愛着を深めるためには、今後さらに地域の人材や教材を発掘していく必要がある。



【 1年生:野菜を育てよう 】

■ その他

草津第二小学校ホームページ <http://kusatsu.scblo.jp>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

いいな いいな とともに学んで ふれ合うまち 渋川

草津市	活動名： 渋川小地域協働合校事業	渋川小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成27年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 ボランティア登録数:200人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

・学校運営協議会では、地域の方に学習活動の様子を写真と口頭で紹介している。
 ・協議会委員からは好意的な声が多く、数年来続いている本校の活動への理解が得られている。また、地域の中で学習内容に合った人材がおられないかという相談は、随時、話している。



【1年生:芋掘り】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

1年生:生活科「芋掘り」

春には1年生の子どもたちがさつまいもの苗を植える作業を農園サポーターの方にお手伝いいただいた。子どもたちは苗を寝かすように置くことに驚きながらも、気持ちを込めて植えることができた。秋になりそのさつまいもの収穫を行った。畑でしっかりと根を張ったさつまいもは子どもたちの力だけではスムーズに掘ることができないため、農園サポーターの方にさつまいもの蔓や葉を切ったり、土をショベルで起こしたりしていただいた。子どもたちを支援していただきながら、一緒に収穫を楽しむことができた。

4年生:総合的な学習の時間「渋川花踊り」

自分たちの住んでいる地域に残る伝統文化の一つである「渋川花踊り」について、保存会の方を講師に招いて教えていただいた。実際に踊り方を教えていただいて踊ってみたり、お囃子に使う太鼓を叩かせていただいたり、花笠を被らせていただいたり、普段のくらしの中では経験できないことを体験させていただいた。活動を通して子どもたちは、自分たちの住む渋川学区への郷土愛を深めることができた。



【4年生:渋川花踊り】

■ 事業の成果・展望

すべての学年が地域の方の協力を得て、子どもたちに豊かな体験の場・学習の場を提供することができている。様々な活動を通して子どもたちは、地域に対する愛着を育んだことから、ふれあいまつりやわんぱくプラザ等の地域行事に積極的に参加する児童も多い。テーマのとおり、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。

本年度は昨年度の反省を踏まえて内容の見直しや精選を図ったが、まだまだ子どもの実態や学習内容に合わせて工夫する余地がある。めあてをしっかりと設定し、子どもたちに見通しをもたせた取組を進めたい。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他(学年主任・学級担任)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

矢倉小学校を過ごしやすく！ いそがばまわれ まずはトイレから始めよう

草津市	活動名： 矢倉小地域協働合校事業	矢倉小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 ボランティア登録数:110人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ■地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

・子どもたちが主体的に取り組める、自分たちでできる学校の環境づくりと、地域の協力の仕方について熟議を通して話し合った。
 ・協働活動で、新たな人材を見つけるために、ボランティアの募り方や活動の内容、持続可能な活動となるような組織のあり方などについて熟議を通して検討した。



【 プロジェクト第2弾
トリックアートで驚かせよう 】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

校内における最重要課題としてあげられたトイレの環境改善について、児童会、地域のボランティア、教職員の代表それぞれが話し合い、自分たちができることを考えた。地域の方も加わって、実際にトイレの掃除をしてみることで、子どもたちの「困り感」や環境整備の必要性や重要性を実感し、改善策を模索した。

2学期に登校してきた子どもを驚かせようと、地域から有志を募り、夏季休業中に子どもの手ではできない部分を中心に大人の手でトイレ掃除を行い、それぞれ担当したトイレの装飾を行った。

トイレプロジェクト第2弾は、子どもたちから出た案を採用し、トイレ入口の壁にサプライズでトリックアートを描く活動を行った。放課後に有志が集まった子どもと地域の方、教職員で作画を行い、登校してきた子どもたちを驚かせることができた。



【 できあがったトリックアート 】

■ 事業の成果・展望

地域の方について、子どもたちがおかれている環境、子どもたちができることやできないこと、学校の課題等、作業を一緒に行うことを通して、体験的に知っていただくことができた。

子どもたちについて、自分たちの思いや願いを伝え、形にすることを体験し、「私たちの学校」を自覚し、よりよくしていこうという意欲を持つことができた。

子どもたちが毎日使うトイレだが、経年劣化による故障や和便器のままであるといった課題がある。そこで生まれたこのプロジェクトであるが、プロジェクトのメンバーでできることにも限界があるため、子どもたちの願いや思いの実現が難しいところもある。SDGs の観点からも、子どもたちが安心して生活できる学校環境をつくっていけるよう、今後もできることを考え、実践していきたい。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他(チーム矢倉)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

ゆう ゆう
手をつなぎ、心通わす 誘・融（融けあう）老上

草津市	活動名：老上小地域協働合校事業	老上小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成28年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：200人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに 印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

各学年のスクール ESD くさつプロジェクトに関わる取組やボランティア・地域の方との連携について協議が行われた。本年度も各学年が地域を活動の場として取組を進める中で、地域の方のご協力を頂いた。地域の方の協力を頂いた後、学習がどのように進んでいるのかわかりづらい部分があるとお声をいただいたため、お世話になった地域の方や保護者などを集めての学習発表や提案を行うように活動を進めていった。

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

「老上ふれあい農業合校」と学校が連携・協働して、こどもたちの農業体験を行っている。

米や野菜を作る楽しさ、収穫を通して喜びを知り、感謝の気持ちがもてるように、学年に応じてめあてを設定して学習を進めた。地域住民と協働する姿から世代間の交流も図られている。学校では学習のみの関わりにとどまらず、こどもたちが将来、地域に戻った時にも声をかけ合える関係をつくることで、地域の活性化にもつながっている。

3年生が「老上安全大作戦！」の取組を行っている。本学区は、都市開発が進み、住民の数が増加している。校区内に学校が多くあるためか、自転車に乗る中学生・高校生と細い道ですれ違うことも多くある。また、車の通りが多い道路が通学路になっていることなどから、こどもたちが安全に気をつけるべきだという思いをもった。地域の方や保育園、郵便局員の方などに普段、安全のために気をつけていることを聞くなどし、「地域の交通安全のために何か行動をしたい」という気持ちを高め、自分たちの願いの実現に向けて取組を進めている。



【 稲刈り 】

■ 事業の成果・展望

こどもたちが地域の方の生活の様子や考え方にふれ、地域のよさや学区への愛着を感じられるようになり、豊かな人間性を養うきっかけとなる取組となっている。

地域の方々とふれ合ったことで、家庭でも地域のことが話題に上がり、保護者の方々も地域について興味をもつきっかけとなっている。

取組をよりよいものにするためには綿密な打合せ、および準備が必要になる。地域コーディネーターと各学年のスクール ESD 部会担当者が中心になり、連絡調整を行いながら、学習計画を作成している。その際、学校での総合的な学習の時間の授業展開や、ねらいなどを丁寧に伝えることで、学校と地域の取組がつながるようにしている。他方、働き方改革が重要視される昨今の教育現場の状況を鑑みて、学校と地域それぞれの負担の軽減に取り組むことが必要である。また、長年地域学習に関わる方々からは、高齢化によりの事業の継続が困難になってきている現状もあり、新規かつ若手の推進委員・ボランティアの確保が必要である。新たな人材の確保、また円滑な情報の共有のためにも、これまで以上に地域コーディネーターの果たす役割が重要になってきている。



【 警察の方と交通安全について 】

■ その他

老上小学校・学校ホームページ <https://kusatsu.scblo.jp/oikami>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに 印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

やってみよう！2025 ～地域とともに協同(協働)する学校～

草津市	活動名：老上西小地域協働合校事業	老上西小学校 学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成28年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 ボランティア登録数:75人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

- ・地域協働合校の活動方針や実施した内容について
- ・郷土に関する学びを深める学習について

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1)栽培活動

1年生のさつまいも、2年生の大根、5年生の米等の作物を、農業学校やサポーターの方の協力を得ながら栽培した。栽培中は、適宜様子を観察し、成長を見守った。収穫した作物は、家に持ち帰ったり、調理して食し、収穫の喜びを感じたりすることができた。

(2)学習支援

5年生の総合的な学習の時間で、田植えの体験学習支援をしていただいた。担任の指導が行き届きにくいところを支援していただいたおかげで、安全に配慮しながら、きめ細かい指導を行うことができ、子どもたちは充実感を得ることができた。

(3)読書活動の推進

図書ボランティアの方には、本の貸し出しや整理、掲示物の作成など、子どもたちが本に親しめる環境づくりに貢献していただいている。毎週火曜日には、低学年を中心に、朝の学習の時間を活用して読み聞かせをしていただいた。子どもたちは、読み聞かせをたいへん楽しみにしていて、読み聞かせをきっかけとして読書の幅を広げることができた。

(4)郷土学習

盲導犬ユーザーの方からユニバーサルデザインやバリアフリーについてお話いただいた。このことをきっかけとして福祉への課題意識を持ち、子どもたちは自分たちが生活する草津には、年齢・性別・文化・障害・国籍など、さまざまな人が生活していることを学んだ。そのような社会の中で、自分はどうのように生きていきたいかについて考えた。



【 5年 稲刈り 】



【 3年 ユニバーサルデザイン学習 】

■ 事業の成果・展望

- ・年度当初に「サポーター活動年間計画」を作成・配布し、保護者や地域の方に1年間の見通しを持ってもらえるようにしている。
- ・担当者とのこまめな打合せを行い、些細なことでも共有するよう努めている。
- ・地域コーディネーターを中心として、地域や保護者との連携を密にすることで、子どもたちの体験的で主体的な学習を安全に実施することができた。
- ・郷土について学ぶ活動を、充実、発展させていきたい。

■ その他

学校ホームページ <https://kusatsu.scblo.jp/oikaminishi>

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

すきです玉川 わたしも参加 つくるよろこび

草津市	活動名：玉川小地域協働合校事業	玉川小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成28年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 ボランティア登録数:40人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 □学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)
 ■学校・園 ■学校運営協議会 ■地域学校協働活動推進員等 □行政 ■その他(地域、自治会・地域団体等)

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映
 ・地域に愛着を持ち、地域の課題を解決しようとする児童の育成を、学校・保護者・地域が連携して取り組むことについての共有と協議。
 →以前は地域のみなさんにお世話になっていたの体験活動のみで終わっていたが、体験を経て児童が課題解決に向けての発信をすることが増えてきた。
 ・「スクール ESD くさつプロジェクト」本校各学年の取組紹介ならびに協力依頼
 →5年生総合的な学習の時間「めざせ！食のスペシャリスト～食品ロス問題からつながる輪～」を紹介する中で、地域で取り組まれているフードバンクとの連携を検討することにつながることができた。



【 5年生 フードバンクについて知ろう 】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)
 1年生「たまがわ・関わり隊」

1年生では、地域のみなさんにご協力いただき、さまざまな体験活動(さつまいも苗植え、交通安全教室、バルーンアート、シャボン玉、科学実験、マジック、スライム作り、昔遊び、さつまいも掘り、やきいもパーティー、けん玉)を行った。児童は体験的な活動を楽しむ中で、地域への愛着を高め、地域のみなさんにつながるよさを実感することができた。また、自分たちの生活が地域のみなさんに支えられていることに気づくこともできた。

5年生「めざせ！食のスペシャリスト～食品ロス問題からつながる輪～」

5年生では、食品ロス問題の解決を目指す中で、地域で取り組まれているフードバンクについて教えてもらう機会をもった。これまで地域のみなさんには、さまざまな体験活動で協力いただいてきたが、今回、地域が校区にある立命館大学の学生のためにフードバンク事業を行ってられることを知り、あらためて「助け合い」「支え合い」を大切にしている地域のあたたかさを実感することができた。



【 5年生SAPに対する保護者の反応 】

また、児童が考えた「食品ロス削減アクションプラン(SAP)」について、実践できそうか、実践してみたいか等を保護者に意見を伺う機会をもった。児童にとっては、自分たちの取組に対して意見をもらうことで、自分たちだけでは気づかなかった視点に着目するきっかけになり、取組をよりよいものになろうと練り直すことができた。そして、それ以上に称賛・励ましの声等をもらえたことで、取組への意欲向上につながった。

■ 事業の成果・展望
 「スクール ESD くさつプロジェクト」事業の導入により、児童の自主的・主体的な活動につながっている。また、教職員も地域のみなさん方とつながる機会や地域の「財」を知る機会が増えた。活動の充実には、保護者・地域の協力が不可欠である。今後も充実した体験活動等を実施する中で、地域の課題を解決しようとする児童の育成を図るために、保護者・地域とともに教育活動を進めていきたい。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)
 ■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 ■その他(学級担任等)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

素敵な出会い みんなで創るまち 南笠東 ～大人も子どもも 共に地域で学びましょう～

草津市	活動名：南笠東小地域協働合校事業	南笠東小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度:平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数:1人 ボランティア登録数:約 100 人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援、図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input checked="" type="checkbox"/> その他[クラブ活動講師]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに 印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

- ・南笠東小の地域の皆さんで構成された「みな小おうえんたい」の活動写真などを、学校だよりや学校ホームページに掲載した。
- ・まちづくりセンターへの掲示を継続することで、「みな小おうえんたい」の活動をより多くの方に知ってもらうようにする。
- ・保護者へのPR を積極的に行い、保護者(PTA)が参加できる体制を整えていく。



【 玉ねぎの苗植え 】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

【みどり学級 野菜屋さん(特別支援学級)】

みどり学級の学習で野菜の苗植えから地域の方から教えていただき、たくさんの野菜を収穫することができた。収穫した野菜(玉ねぎ、じゃがいも)は地域のまちづくりセンターで販売した。児童にとって、野菜販売という学習だけでなく、「ありがとう」、「おいしかったよ」と地域の方と交流できたことも、たいへん有意義だった。

【みな小おうえんたい(学習支援)】

*狼川の生き物探し[3年生]

学校近くの狼川に生息する生き物を一緒に探していただいた。普段は入ることができない川に住む生き物を把握することで、こどもたちの校区の川や自然への関心が高まった。

*エプロンづくり[5年生]

5年生の家庭科で初めてミシンを使用する際の学習支援に来ていただいた。たくさんの方に来ていただき、一人ひとりにきめ細かな支援を行うことができた。

【学校周辺の道路のゴミ拾い(日赤さんといっしょに)】

マナー向上委員会の児童と「みな小おうえんたい」「日赤奉仕団」の方々と、学校周辺のゴミ拾い活動を行った。児童と地域の方が一緒に活動することで、郷土愛の育成につながった。



【 5年エプロンづくり 】

■ 事業の成果・展望

- ・事業実施については、担当学年からの要望を地域コーディネーターに伝えたり、事前に打合せを行ったりすることで、活動内容の充実につながった。
- ・校内掲示板を活用したことで、校内でも児童や保護者がいつでも活動内容を知ることができた。また、学校HPや学校だよりでも啓発することで、より広く周知できた。
- ・地域の方々が大変協力的で、児童と関わることに喜びを感じてくださっている。今年度も総合の学習などの学習のゴールとして、発表などを地域の方に向けて行うことで、児童も地域の方も達成感を感じることができた。
- ・「みな小おうえんたい」として登録されている方をより有効活用するために、地域コーディネーターと協議を重ねていきたい。

■ その他

- ・学校運営協議会に、地域コーディネーターやまちづくりセンターの職員も参画していただいている。
- ・HPにて、活動を紹介している。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに 印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(担任)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

出合い・ふれあい・学び合い ～みんなで育てる山田の子～

草津市	活動名： 山田小地域協働合校事業	山田小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：平成 28 年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：70人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

- 山田校区ならではの特色ある取組を継続して行っていく。
- 地域との関わりを深めるとともに、新たな人材の発掘を行っていく。
- 取組を広くいろいろな方に知っていただいたり、一緒に参加いただいたりできるよう、発信や募集の方途を探っていく。

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

(1)野菜を育てよう【1年生】

1年生では、毎年、山田園小教育後援会の皆さんにご協力いただきながら、山田こども園年長組のこどもたちと一緒に、さつまいもの栽培に取り組んでいる。今年も5月に一生懸命に土を掘り、お芋がたくさんなりますように願いを込めながら、さつまいもの苗を植えた。収穫の日を迎え、今年は猛暑の影響で若干実りが少なかったが、それでもこどもたちは大喜びであった。山田園小教育後援会はじめ、ボランティアや保護者の方々のご協力も得て、収穫の喜びを味わうことができた。



【 さつまいもの収穫 】

(2)アオバナ探検隊【3年生】

3年生では、草津市の市花である「アオバナ」の栽培に取り組んだ。毎朝がんばって水をやり、アオバナ摘みを行った。そして、摘んだアオバナを使って、アオバナ染めのお守りや扇子作りに取り組む中で、アオバナの魅力を十分に感じる事ができた。

また、「アオバナのことを園のこどもたちに教えてほしい。」という山田こども園の園長先生からの依頼を受け、アオバナにまつわる民話を紙芝居にまとめたり、劇や替え歌、〇×クイズなど園のこどもたちが楽しんでアオバナのことを知れるように工夫したりしながら、園のこどもたちにがんばって伝えることができた。さらには、アオバナの魅力をより多くの人に知ってもらおうと、自分たちが学習してきたことやアオバナの絵、川柳などを、百貨店の催事会場に展示していただくこともできた。



【 こども園での交流会 】

■ 事業の成果・展望

本校は、学校から歩いて行ける範囲内にビニールハウスや農業センター、田畑、漁港などがあり、様々な体験ができる環境にある。また、地域の方々の協力も厚く、ともにふれあいながら体験を進めている。とりわけその要となっているのが地域コーディネーターの存在である。地域コーディネーターが中心となって調整を進めることで地域との連携がスムーズに進み、それぞれの学年の活動がより有意義なものとなっている。

また、各学年の活動の様子を校内掲示板的『地域協働合校コーナー』で紹介したり、学校のホームページや山田学区まちづくり協議会のLINEで配信したりすることで、多くのこどもたちの意欲付けにつながったり、保護者をはじめ地域のより多くの方に知ってもらえるよい機会となったりしている。

■ その他

年間4回開催される学校運営協議会には地域コーディネーターと担当教諭も参画し、こどもたちの活動の様子等を伝える中で、地域の様々な諸団体との連携がさらに深まるよう努めている。

【山田小学校ホームページ】 <https://kusatsu.scblo.jp/yamada>

■協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他()

報告書記入者 (地域連携担当教職員)

こどもの夢育て ～協力して育つ 共に育つ 響いて育つ～

草津市	活動名：笠縫小地域協働合校事業	笠縫小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成27年度 地域学校協働活動推進員等数:2人 ボランティア登録数:80人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) □学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) □地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園 ■学校運営協議会 □地域学校協働活動推進員等 □行政 □その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

- 学校支援ボランティアについて、学校運営協議会委員も協力していく。人材確保のためにも、見通しのある計画を立てていくことが必要である。
- 学校・保護者・地域の連携が、こどもの生きる力につながる。学校運営協議会を利用して、互いの教え甲斐・学び甲斐をもっと求めていけるとよい。

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

- (1)「米作りから学ぼう」(5年生)

5年生の総合的な学習の時間において、地域の人の協力のもと、米の種まきや田植え、稲刈り体験をしたり、成長の様子を観察したりすることで、日本の食糧生産について理解を深めることができた。さらに、生産した米を草津駅の利用者に配布し、米作りに関心をもってもらうよう働きかけた。
- (2)「アオバナはかせになろう！」(3年生)

3年生の総合的な学習の時間で、地域の伝統産業である青花紙用のアオバナを栽培する最後のお一人である「アオバナ栽培の名人」を招き、苗の植え方や世話の仕方を教えていただいた。また、育てた花を摘み、伝統的な方法で和紙を染めて青花紙を作る体験をすることもでき、地域の産業についての理解を深めることができた。
- (3)「ふれあい花壇」(委員会活動)

地域ボランティアとボランティア団体『circle』が環境美化委員会のこどもと一緒に、花壇にパンジーを植え、管理をすることにより、美しい環境を保つように心がけることができた。



【 駅の利用者にお米の配布 】

■ 事業の成果・展望

- 年度や学期初めに、学習支援等をお願いしたい内容について、学年と地域コーディネーターとで打合せを行い、学習の展開や人材の確保に見通しを持てるようにした。また、昨年度より発足したボランティア団体『circle』の協力により、多くの人材が確保できるようになってきている。
- 学習の成果を地域に向けて発表したり啓発したり、一緒に活動したりしたことで、達成感や自己有用感を味わうことができた。
- 授業支援については、専門的な視点を生かした話を聞いたり、体験したりすることができ、こどもたちの学びが深まった。
- ボランティアとの授業前の打合せによって、授業はスムーズに進むものが多かった一方で、授業後のふり返りの時間を取ることは難しかった。地域コーディネーターやボランティアが入れ替わっても、人材との連絡や段取り等が引き継げるように、記録の方法を工夫していくことが必要である。
- 継続してボランティアに協力してくださる方がいるものの、学習を進める上で必要な人材を新たに発掘していく必要がある。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

笠縫小学校ホームページ <https://kusatsu.scblo.jp/kasanui> → → → → →



■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校長 ■教頭 ■地域連携担当教職員 □その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

ふるさとの「いのち」とふれあう東っ子

草津市	活動名：笠縫東小地域協働合校事業	笠縫東小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:平成27年度 地域学校協働活動推進員等数:3人 ボランティア登録数:50人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) ■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り □部活動支援 ■学校周辺環境整備 □学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ■地域行事への参加 □ボランティア・体験活動 ■郷土学習 □その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

- ・地域協働合校の取組についての紹介および協力依頼
- ・スクールESDくさつプロジェクトに関する各学年の取組

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

【1年生:秋の自然で遊ぼう】

生活科の学習で、地域団体「草津塾」の方々をお迎えして、ドングリ・マツボックリ・オナモミ・カタバミ・ススキなど秋の自然を使った遊びをした。ドングリごま、マツボックリけん玉、オナモミダーツ、葉山川帽子づくりに加え、カタバミを使った10円玉磨きに挑戦。地域の植物の特性を生かした遊びを通じて、多様な植物が自生する地域への愛着をもつ機会となった。



【3年 うちわ塗り体験】

【3年生:アオバナお土産開発プロジェクト】

総合的な学習の時間に、草津市の市花アオバナを栽培し、NPO法人「青花製彩」代表の方からアオバナの歴史や育て方、そしてアオバナ農家の減少による伝統継承の地域課題について学んだ。アオバナの色水を使ったうちわ塗り体験をしたことから、こどもたちは「アオバナの魅力を発信したい」と思いをもち、地域団体「草津あおばな会」、地域企業「GANSAN」の協力を得て、育てたアオバナの花びらを活用したしおりやお守りづくりが実現した。また、花びらを粉末加工した青い粉を小さなボトルに入れたお土産開発に挑戦し、地域の方に配布した。

【4年生:かさひがフォレスト再生プロジェクト】

総合的な学習の時間に、地域の葉山川と森・山のつながり、森林の働きについて学習したことをきっかけに「森を身近に感じたい」「森林に親しめる場所を学校に作りたい」など学校の自然環境をよりよくできないかという問題意識が、こどもたちに芽生えた。

そこから、『理想的な森林(フォレスト)』について話し合い、いくつかのプロジェクトチームを立ち上げた。「植樹チーム」は造園材料総合卸中西園材、「憩いの空間チーム」は滋賀県森林組合・金勝生産森林組合、「ビオトープチーム」はロクハの自然を見守る会、「生き物チーム」は湖北野鳥センターの方々の協力を得て、本校グラウンドにウメ・ライラックなど6つの植樹、看板やベンチづくり、ビオトープ整備、巣箱づくりに取り組んだ。多くの方とつながり、願いを実現することができた経験は、自信や達成感をもつ機会となった。



【4年 ベンチづくり】

■ 事業の成果・展望

本校は、学習発表の機会として11月に「東っ子博物館」を設定している。学年に応じて全校児童、保護者、地域の方や各団体へ、地域の願いを大切に解決策の提案や発信、依頼をすることができた。今後も、学習発表や啓発の機会として活用していく。

今後の展望としては、こどもたちが「(地域課題に対して)解決したい」と願いをもち、より一層主体的に活動に取り組めるように、地域の方にこういった内容、時期で協力を得ていくのか年度当初に年間の見通しを立てる時間を設定していく。また、地域の方の高齢化が進んでいるため、事業内容の精選や人材確保が急務である。スムーズに地域と協働実践を図れるように、各学年の実践事例のデータ化、地域コーディネーターや学区まちづくり協議会との連携を行っていく。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(該当学年教員)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

ふるさと常盤から町のすてきを探そう

草津市	活動名：常盤小地域協働合校事業	常盤小学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度:平成27年度 地域学校協働活動活動推進員等数:3人 ボランティア登録数:50人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援、図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

- ・地域コーディネーターの複数人体制について
 - ・地域の協力体制のお願い
- 今までの地域学習を継続させるために地域の方の高齢化が問題である。他に協力していただける方はいないかという相談。



【 町たんけん で5年生が植えた苗を発見 】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

- ・5年生が植えた苗を町たんけんの道中に見ることで、地域に関わる他学年の取組にもふれることができた。
- ・登下校の道中にあり、児童があまり知らない店に見学に行くことで、新たな地域とのつながりができ、登下校でのあいさつ等が活発になったり、自然と地域で見守りが増えることで児童の安全につながったりすることができた。
- ・1回目の町たんけん で多くの場所に訪れた後、児童が更に詳しく知りたい場所を自ら選択し、方面別に分かれて町たんけん をすることで、児童の関心を更に高めることにつながったと考える。

■ 事業の成果・展望

- 事前に地域コーディネーターと担任、担当教職員で地域の方々の「ふるさと常盤」を愛する気持ちや、後世に伝えていきたいという思いが児童に伝わるように、目の前の児童に何を学ばせることが必要か相談してきた。
- 住んでいる町内だけにとどまらず、校区にある様々な町内を巡る活動を通して、「ふるさと常盤」に対する思いがさらに深くなった。



【 方面別に行った町たんけん 】

△地域コーディネーターの交代、各事業でお世話になっているボランティアの方々の高齢化による活動内容の精選が必要である。教職員の人数が少ないことから同行する教職員が児童の突発的な対応に追われ、他の児童がじっくりまとめができない実態があった。しかし、地域コーディネーターの方をはじめ、参加して下さった地域の方の協力的な姿、学校運営協議会の方々の支えがあったからこそ、計画していた地域学習を大幅に縮小することなくできたことは、感謝の一言に尽きる。

△地域の方々と授業前の打合せによって、授業はスムーズに進むものが多かった一方で、授業後のふり返りの時間をとることは難しかった。地域コーディネーターや授業支援の方々が入れ替わったとしても、連絡や段取り等が引き継ぎるように、記録の方法を工夫していく必要性を感じた。

■ その他

- ・毎回、学校運営協議会で進捗状況を報告し、各委員から助言を得ている。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

持続可能な社会を担う資質と能力をもつ生徒の育成

草津市	活動名：高穂中地域協働合校事業	高穂中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：令和6年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに 印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

本校では、課題解決のために計画し、失敗を恐れずやり抜く生徒育成のため、学習の場を地域へ広げ、日頃の学校生活では学べない経験や知識が得られるように地域協働合校事業を推進している。総合的な学習の時間で「たかほ学」と称し、地域へ学校から出かけていくようなつながりがある行事を増やしていくために活用できる地域資源について学校運営協議会で協議している。令和4年度からは保護者や地域住民へ学校教育を支援していただくため、年間行事や授業補助、学校環境整備等の案内を配布し、ボランティアを募っている。図書書籍ブッカーかけや調理実習補助、校外行事での交通立番等学校への協力者も定着しつつある。

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

「たかほ学」

1年生…ふるさと学習

身の回りの問題に気づいて、解決のアイデアを考え、実行していくことが社会に出た時にも重要になってくることを学び、他者と協働しながら主体的な行動を促す。立命館大学キャンパス体験や大阪・関西万博への校外学習を通して、地域のためにできることをフィールドワークや専門家によるセミナーから学び、行動に移す。

2年生…生きかた学習

キャリアパスポートを活用して自分を見つめ直すとともに、自分の適性に合った職業について調べ、仕事が生み出す価値や仕事の仕組みについて学び、広い視野をもって自己の進路について考え、2学期に実施する職場体験学習へとつなげた。事前学習として様々な職業の方からの職業講話や企業から講師を招いて、社会人としてのマナー講座を実施。お世話になった職場の方を招いて Working サミットを実施予定。

3年生…社会参加学習

修学旅行先(佐賀県・長崎県)の歴史、食・伝統文化、産業を事前学習し、SDGs の視点を取り入れながら社会と自身のつながりを意識し、地域社会の一員として自分にできることは何か考え、よりよい草津市を創るための提案を考え、広く伝えていくためグローバル実践(地域や企業、大学や小学校と連携)を行った。



【 2年生 校外学習 】



【 1年生 ふるさと学習 】

■ 事業の成果・展望

- ・3年間の系統性を一覧にして共有し、各教科とのつながりもESDカレンダーに記載したことで常に教職員間で目的を意識した教育活動を実践できた。
- ・生徒の学びや課題改善に向けた仮説を確認するため、フィールドワークに出かけたり、専門家によるセミナーを実施したりと体験的な探究学習を取り入れた。
- ・総合的な学習の時間「たかほ学」での学びが将来社会に出たときに役に立つと肯定的にとらえている生徒の割合は、全体の約90%である。
- ・地域人材の活用やフィールドワーク等、社会に開かれた探求型学習を実施できた。

■ その他

活動の様子は右記二次元コードから本校ホームページへアクセス願います。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに 印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他()



報告書記入者(地域連携担当教職員)

「人権」を柱に人と関わる学校づくり

草津市	活動名：草津中地域協働合校事業	草津中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：令和6年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：6人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

- (1) 淡海祭(文化の部、体育の部)
- (2) 全学年総合学習「草生タイム」の計画について
- (3) 3年生性教育講話

3年生では、生徒が誤った、歪んだ性情報に影響されることなく、自他を大切に尊重できる人になるために、一人ひとりが自分事として考える機会をもった。また、保護者、学校運営協議会委員等地域の方とともに地域で生徒を見守り、自立的・継続的に生徒を取り巻く課題を解決できる地域社会を目指すねらいで講演会を実施した。



【 草生タイム 】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

- (1) 3年生総合学習草生タイム

「草津市未来計画～ずっと草津～」をテーマに、草津市の魅力を発信するパンフレットを作成した。成果物を、店舗・公共施設などに展示し、発信した。その際、コーディネーターの仲介と助言を受けた。

- (2) 図書ボランティア

学校図書館にはほぼ毎日、2～4名の図書ボランティアに来ていただき、図書室の飾り付け、お薦め本のPR、生徒会図書委員会との共同運営をしていただいた。

■ 事業の成果・展望

- (1) 淡海祭(文化の部、体育の部)

文化の部では、地域の音楽指導経験者による審査・指導を行い、専門的な助言により合唱の質が高まった。また、地域に学校の活動を知ってもらう機会になった。行事終了後にさまざまなご意見をいただき、今後の行事につなげていく。

- (2) 草生タイム

地域住民や見学先の大人と直接関わったことで、人間関係や地域でのコミュニケーションが密になり、様々な体験や学習を通して視野が広がった。

- (3) 図書ボランティア

図書ボランティアに蔵書整理や図書の登録だけでなく、読書スペースの拡充、環境整備、イベントの開催などをしていただいたことで、生徒の図書館利用につなげ、本に親しむ環境をつくることのできた。



【 淡海祭 文化の部 】

・地域の方々との話し合いを通じて、学校が支援してほしいことを地域に発信する。学校が求める支援やボランティアに合う人材の新規発掘をしていくべきだが、毎年同じ講師に頼りがちである。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(草生タイム担当者教員)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

ともに高め・輝かそう自分のよさ、老中のよさ、地域のよさ

草津市	活動名：老上中地域協働合校事業	老上中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和6年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 <input type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)
学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映
学校運営方針について
学校生活の様子や行事への取組について
各種アンケートから見られる学校の強みや弱みと学力向上策について
スクール ESD くさつプロジェクトに関わる地域連携と活動について

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)
 ①「老上三方よしプロジェクト(琵琶湖環境学習)」
 スクール ESD くさつプロジェクトの一環として、総合的な学習の時間を活用し、「ヨシ」を通して琵琶湖の環境について学ぶ取組を行っている。
 ②「OBE プロジェクト “OIKAMI BOUSAI Education”」
 スクール ESD くさつプロジェクトの一環として、総合的な学習の時間を活用して、「老上学区」の防災に関する地域の取組を知り、自分と身近な人の命を守る意識の醸成に努めるとともに、地域の防災意識を高める啓発を行う。



【 ヨシの価値や環境保全の役割を 県外の方に発表している様子 】

■ 事業の成果・展望
 ①ヨシ業者等、地域の方の協力を得て、実際に刈り取ったヨシを活用して葦簀(よしず)を作成し、実際に教室に設置して、室内変化を調べる実験を行った。また、イナズマロックフェスにおいて滋賀を PR するブースを出展し、ヨシの価値やヨシが環境保全に重要な役割を担っていることについて発表した。引き続きヨシを用いた商品開発や販売等、マーケティングについて学習を続けていく。
 ②老上学区での防災の取組について地域・企業・行政で活動されていることについて知った。また、災害が起きた時にどのような影響があるか具体的に想定し、実際に地域を回って、危険箇所や水害が起こりやすい場所を調べた。学習したことはオリジナル防災マップにまとめ、今後は地域に向けて発信を行ったり、避難体験等地域との交流の機会を模索したりしていく。



【 防災バックを準備する際に 優先順位の高いものを検討する学習 】

■ その他
中学校区の2つのまちづくりセンターとの連携を密に行っている。
記者提供を積極的に行うとともに、地域の関係機関と情報共有している。
2名の地域コーディネーターは地域人材との連絡調整に努めている。
活動の様子は学校 HP に積極的に発信している。



【老上中学校 HP】

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)
校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(各学年「総合的な学習の時間」担当教職員)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

地域とのつながり学習に保護者も共に

草津市	活動名：玉川中地域協働合校事業	玉川中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに <input checked="" type="checkbox"/> 印 開始年度：令和6年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ボランティア登録数：50人 <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援、図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

本校のつながり学習は、地域の力を活かした取組が複数の分野で実施できているが、学校運営協議会の委員から「生徒だけでなく、保護者も一緒に学ぶことのできる機会を設けてはどうか」との意見があった。それを受け、保護者に関連する行事を開催する場合には、PTAに代わって今年度より発足した「チームたまぞう(玉中保護者と教職員の会)」に、その都度参加保護者を募る形としているため、実際に、つながり学習のフィールドワークの時間に、保護者が授業参加・授業参観できる機会を設定し、参加保護者を募集した。



【 つながり学習 保護者参観・参加 】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

“生徒間でのつながり”

1年生では、環境・人権・防災等の内容を学年統一で探究する。2年生になると、4つの分野(地域・琵琶湖・人権・防災)の中から自分が課題をもって探究したい分野を選択し、専門家の協力を得ながら学習を進めていく。2年生の終わりには、今までの学びから、課題を実践につなげるアイデアを出し合い、それを基に3年生で4～5つの分野に分かれる。そこでは、探究したことだけにとどめず、実際に課題解決のために実践したり、広く多くの人に伝えたりする。

これらの各学年の取組を「つながり学習発表会」で発表することで、生徒自身が、来年はどの分野で学びたいかを考えるきっかけとしている。

“地域とのつながり”

玉川中学校は、学びの探究ができる環境に恵まれ、立命館大学、パナソニック、湖南消防署、あさがら野子どもと自然舎、桜ヶ丘プロジェクト、草津養護学校、クリーンセンター、市役所等における各専門家や関係の人たちから学ぶことができる。

“保護者も含めた、地域とのつながり”

今年度は、このつながり学習を地域と生徒から保護者の学びに広げた。自分の住む地域のことを知り、家族間で地域のことや将来のこと等を話したり、考えたり、実際に働きかけたりするきっかけになってほしいという思いから、保護者に「生徒と一緒に学びませんか」と案内、募集をした。



【 つながり学習掲示物 保護者閲覧中 】

■ 事業の成果・展望

今回の保護者や学校運営協議会からの参加者は13名であった。保護者の中には、つながり学習という言葉は知っていたが、内容までは知らなかったとの回答もあり、ここから生徒の活動や学びの様子が広まり、少しずつ参加・参観される方が増えることを期待したい。参加された保護者は、生徒と同じように専門家からの話を聞いたり、魚の解剖の様子を見たりする等、学びを通して、一緒に考えるきっかけとなったと話されることもあり、これからの地域のことや自然・環境のこと等を家族で話したり、考えたりするきっかけになったと思う。さらに、生徒も保護者に学ぶ姿を認められ、次の意欲に結びついたと思う。

■ その他

今年度結成の「チームたまぞう」の活動は、生徒の教育活動を充実させるために、その都度保護者と教職員が企画して実施してきた。そのつながりが生徒の学びを深める大きな力となった。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他()

報告書記入者(地域連携担当教職員)

学校と地域の連携を通じて、生き生きと活動に参画できる社会づくり

草津市	活動名：松原中地域協働合校事業	松原中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度:令和6年度 地域学校協働活動推進員等数:2人 ボランティア登録数:150人 <input type="checkbox"/> 学習支援(授業補助、学力補充等) <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input checked="" type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input checked="" type="checkbox"/> 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) <input checked="" type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

- 学校の運営方針について
- 校内研究を含めた生徒の学力向上について
- 地域協働合校の活動方針や実施した内容について
- スクール ESD くさつ推進事業に係る地域人材と学校をつなぎ、継続した活動にするための手段・方法について



【園児と大根の種を蒔いている】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

スクール ESD くさつ推進事業と家庭科の教科横断型の取組として、昨年度より松原中学校区内のこども園3園で保育実習を実施している。活動の中心は、家庭科で学習した手遊びを園児と一緒に取り組んだり、春大根の栽培方法をタブレット紙芝居で園児に見せたりした。そして、園児と一緒に春大根の種を蒔く取組を行った。

また、草津市農林水産課の農商連携調整員や地元農家の方々の指導の下、土壌改良や畝づくり、野菜の栽培などの農業に関わる体験活動を行った。

■ 事業の成果・展望

未就学児や地域の方々などさまざまな世代の方とのコミュニケーションを行う力を身につけることができた。生徒たちが中学校を卒業し、社会に出た時にコミュニケーションを図っていくときに必要となる力の源となった。そして、地域関係者やボランティアの方々とのふれあうことにより、生徒たちにとって温かいつながりをもつことができた。

また、総合的な学習の時間や放課後の時間を活用して農産物を育てることにより、地元の農産物により親しみをもつことができ、農産物を育てる意義や目的についても理解することができた。



【農業体験(大根の間引き)】

■ その他

学校運営協議会における熟議を通して、協議委員(地域コーディネーター)には地域課題解決型学習に向けたアイデアを出していただき、地域人材活用に係るパイプ役を担っていただいている。また、地域と学校のニーズの重なりを検討し、地域ボランティアを活用している。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他(事務職員)

報告書記入者(地域連携担当教職員)

つなげよう 仲間と地域を ～ for the future ～

草津市	活動名：新堂中地域協働合校事業	新堂中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：令和6年度 地域学校協働活動推進員等数：2人 ■学習支援(授業補助、学力補充等) <input type="checkbox"/> 図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備) ■学校行事支援 ■子どもの安全確保、見守り ■部活動支援 ■学校周辺環境整備 ■学びによるまちづくり ■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ■地域行事への参加 ■ボランティア・体験活動 ■郷土学習 <input type="checkbox"/> その他[]			

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他()

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

- PTA 組織解体に伴う、保護者・地域の人材へのボランティア活動の発信
- 常盤学区・笠縫東学区両ふれあいまつりへの出展及び生徒のボランティア参加
- ESD 全校集会の開催【各学年：新堂中 ESD 実行委員会主催】
 - *1年生：校区の世界農業遺産フィールドワーク・琵琶湖システムの魅力発信
 - *2年生：地域の伝統文化調査・職場体験学習 地域 poster session 開催
 - *3年生：SDGs の観点から自分達のまちづくりを発信 修学旅行発表会等



【 新堂中 ESD 全校集会 】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

- 新堂中 ESD の活動の一環として：
 - *キャリア教育推進事業推進校の高校生を講師として招聘・交流
 - *イナズマロックフェス参加・ステージ発信
 - *志那中環境を守る会・志那漁協・JAレーク滋賀・滋賀県庁農政課とコラボレーション
 - *『道の駅くさつ』での啓発活動【琵琶湖ふりかけと湖魚佃煮の販売】
 - *世界湖沼会議【Australia Brisbane 開催】取組動画作成・発信

○中学校としての情報発信：

- *小学校ふれあいまつりでブースを出展して活動の発信 *地域の公共施設・商業施設の方々との交流
- *学年ごとに学習発表会【職場体験 poster session 等】
- *ESD フェスタでの市内全小中学校への発信

■ 事業の成果・展望

- 3年間を見据えた大テーマ『地域を知る・地域に学ぶ・地域を考える』を目標としての活動の一区切りができた。また新堂中 ESD の活動とも相まって、地域から滋賀県へとつながるグローバルな活動になりつつある。
- 新堂中 ESD の探究活動を通して、地域の様々な人とつながり、校区の魅力を再発見し、広く発信することができた。自分たちの住む町をよりよいものにしたいという思いや誇りをもつ様子が見られ、郷土愛が育まれた。
- ESD 全校集会で各学年の活動内容を発表しあうことで、お互いの探究活動に共感する様子が見られ、学年を越えた縦のつながりが深まった。
- ESD 生徒実行委員会が中心となり、探究活動を企画運営することで、生徒の自主性やリーダーシップが発揮された。

■ その他

1週間に1回の ESD 担当者会を開催し、各学年の活動状況を共有・協議した。
 さらに、職員会議での活動報告により全教職員に周知することで、学校全体でスムーズに探究活動が進められ、新堂中学校 ESD の活動の理解者となり活動の推進力となった。



【 イナズマロックフェス滋賀ブース出展 】

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他()

報告書記入者(教務主任・地域協働合校・ESD 担当)